

木津川上流域の事業推進について

当上野市には淀川水系の支川である木津川、服部川、柘植川の三大河川が市街地を囲むように流れており、それらは市北西部で合流し、岩倉峡の狭窄部を通り、淀川へと合流しています。

このような河川環境にあるため、市民生活と河川があらゆる面で密接に関係しております。それゆえ、特に現在の上野市の課題である治水面について、河川利用との関連という視点から提案をさせていただきます。

木津川上流域の治水対策は、昭和46年の「淀川水系工事実施基本計画」に基づいて、上野遊水地と川上ダムの複合計画で洪水時の流量調節を行い、下流域と当市の洪水防止対策を図る計画をしていただいております。

当市においても、市民のご理解ご協力をいただき、長田、小田、新居、木興の四地区（約250ha）の周囲堤用地の買収、遊水地となる土地の補償（地役権設定）も進み、今年度には、木興遊水地の周囲堤工事も完成すると聞き及んでおります。しかし、すでに30年の歳月を要しており、その間に、数回の湛水被害を受けております。

今後、本川堤防、川道整備、越流堤、減勢工、排水機場の設置などの工事を早急に実施していただき、市民の水害恐怖を解消していただけますようお願いいたします。

ところで、昨今、河川に対する考えも広範なものとなり、治水、利水に加えて、河川利用も大きな柱となってきております。特に、当市のような河川と密接な関係をもつ自治体としては、遊水地も治水面の充実だけに限らない多角的な利用を望みたいと考えております。

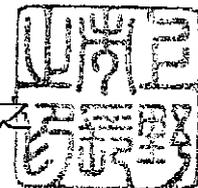
例えば、直轄三川の本川堤と遊水地周囲堤にサイクリングコース・ジョギングコース・散策路などを設置するというような利用です。これは市街地から岩倉峡など観光地へのアクセスとなるだけでなく、市民の健康作りの場にもなり得ます。また遊水地の歴史などの案内板も設置することで、市民の方々にも遊水地事業への理解を深めていただけると考えます。

このように、さまざまな面からの遊水地事業への理解を深めていただけるようにするとともに、事業の早期完成を実現していただき、当市の洪水常習地域からの脱却と地域住民の生活の充実を実現できますよう、提案させていただきますので、ご検討のほどよろしくお願いいたします。

平成14年4月30日

上野市長 今岡

陸



(木津川上流直轄改修促進期成同盟会参加団体)